私たち一人ひとりの行動が、未来につながる。
SDGs未来都市　神奈川県

神奈川県

令和７年 12 月 16 日
記者発表資料

メモリーケアクリニック湘南が未病指標を本格導入！

県の連携型認知症疾患医療センターとして、初の取組み

県では、個人の未病の状態を見える化できる未病指標（※1）の活用及び、認知症未病改善プロジェクト（※2）を推進し、高齢者や働く世代等の未病改善に繋げる取組みを行っています。
このたび、軽度認知障害（MCI）の見える化や早期介入をはじめ、認知症に関する最先端の臨床研究や共生社会の実現に向けて先導的に活動されている「メモリーケアクリニック湘南」（院長：内門大丈）において、未病指標を本格導入することとなりましたので、お知らせします。

○　本格導入の概要

（1）開始時期　令和7年 12 月から

（2）場　　所　メモリーケアクリニック湘南（平塚市四ノ宮 5-20-4）

（3）内　　容　診療の待合時や、地域での認知症に関する啓発活動の際に、同クリニックの医師・看護師等から来院者ご本人・ご家族等に対して、別添のリーフレットにより未病指標の測定をご案内します。
その案内を受けて未病指標を測定いただくことで、「認知機能」及び認知機能低下にも関連する「生活習慣」「生活機能」「メンタルヘルス・ストレス」の領域も含む、心と体と脳の全体の未病の見える化を推進し、未病改善への行動変容を促します。


（受付で未病指標を案内する様子）


（内門院長が診療室で案内する様子）

○　内門 大丈（うちかど ひろたけ）院長からのコメント

私自身も未病指標を測定していますが、本当に素晴らしく、その有用性を実感しています。未病指標は、ご自身のスマートフォン等から、ご自宅等で気軽に測定ができ、本人や家族にとって測定の負担が少なく、認知症の未病改善に意識を向けていただくきっかけとして、非常に効果的です。また、認知症の発症には、生活習慣やメンタルヘルス等の要因も影響することから、認知機能以外の他の領域も含む未病指標の4領域全体の測定を行うことにも大きな意義があります。未病指標は、未病から医療の現場をつなぐ測定ツールとして、重要な役割を果たすと考えており、当院の来院者や取組みを一緒に進めている関係者に、積極的な利活用をお勧めします。

※1　未病指標

自分が健康と病気のグラデーションのどこにいるのか、生活習慣、生活機能、メンタルヘルス・ストレス、認知機能の4領域を 3 段階評価し、現在の体と心と脳の未病の状態を数値等で見える化するもので、県の健康管理アプリケーション「マイ ME-BYO カルテ」などで測定可能。認知機能の測定では、単語の記憶と時計描画の検査を組み合わせたスクリーニング検査法である「Mini-Cog」を実装している。

※2　認知症未病改善プロジェクト

認知機能低下に伴う、身体機能低下、精神機能低下の悪循環を未病コンセプトに基づき改善するため、各種機能に関する早期の気付きと、維持・改善・補完などの介入を通じて、総合的に日常生活・社会生活での QOL の維持・向上を目指す、神奈川県の産学公民連携の取組。

【参考】メモリーケアクリニック湘南及び内門院長について

メモリーケアクリニック湘南：精神科、内科、外科（緩和ケア）などの分野を横断し高齢者医療全般に対応する診療所として、医療法人社団彰耀会により2022 年に平塚市四之宮で開設。軽度認知障害の見える化と介入から認知症の最先端臨床研究及び共生に関する取組等も幅広く展開している。

内門大丈院長：医療法人社団彰耀会理事長、横浜市立大学医学部臨床教授。認知症の人の在宅医療を推進するとともに、認知症初期集中支援チームや連携型認知症疾患医療センターの運営など、地域医療における多職種連携体制の構築を目指している。また、湘南から「日本の未来をデザインする」認知症情報発信サイト「湘南健康大学」を運営するなど、認知症に関する啓発活動と地域コミュニティの活性化を実践している。

（別添資料）

未病指標案内リーフレット

《SDGsの推進について》

県では、SDGsの達成にもつながる取組として、県民の未病を「見える化」し、未病改善につなげる「未病指標」の普及及び「認知症未病改善」の取組を進めています。



問合せ先

神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室
未病産業担当課長　湧川　　電話 045-285-0047
未病連携グループ　佐藤　　電話 045-285-0778